

## 住宅用火災警報器の設置はお済みですか



火災予防を呼び掛ける上益城消防署員

### ■住宅用火災警報器の設置が義務付けられています

住宅火災による死者のうち、逃げ遅れが原因で亡くなった人が6割以上です。早く火災の発生を知っていれば、助かったケースもあるのではないかと考えられます。

そこで、平成16年の「消防法」の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

### ■警報器は、原則として寝室や階段などに設置します

警報器を設置する建物は、戸建住宅、アパートなどの共同住宅、店舗併用の住宅などにおける住宅部分です。原則として、すべての寝室と、寝室がある階の階段が対象で、壁か天井に取り付けなければなりません。

火災の発生をいち早く感知し、警報音などで知らせるのが、警報器の役割です。寝室などに設置することで、より効果的に火災発生について感知することができ、逃げ遅れによる死者の発生を防ぐことができます。

### ■規格に適合した警報器を購入して取り付けましょう

警報器は、技術上の規格に適合したものを購入しましょう。規格に適合した警報器には、「NSマーク」（日本消防検定協会の鑑定マーク）などが表示されています。

大きく分類すると2種類あり、設置場所や形状に応じて取り付けることができます。価格は1個あたり約4,000円〜15,000円程度で、メーカーや種類、機能、電池の寿命などにより異なります。

#### ①煙式警報器

- ・特徴 煙を感知して、警報音や音声で火災を知らせます。

#### ②熱式警報器

- ・特徴 熱を感知して、警報音や音声で火災を知らせます。

#### ▼お問い合わせ先

上益城消防本部  
☎096・282・1955

### ■生活習慣見直しで健康維持

医療技術の進歩と生活習慣病の長期治療による医療費の増大が、本町における国民健康保険の財政圧迫の大きな原因となっています。

本町で昨年度1か月に掛かった医療費用額上位3件のうち、1位は、19日間の入院費用として支出された442万5,760円です。そのうち個人負担額は、100分の1程度です。2位は、411万7,700円、3位は372万5,070円となっています。この3位までに入った高額医療費用額の対象となった人たちの共通点は、高血圧性疾患の治療を受けているということです。

高血圧性疾患の治療を継続的に受け、さらに、生活習慣を見直すよう心掛けましょう。

#### ●血管に強い圧力が掛かる高血圧

高血圧の状態が続くと、血管壁の内面が傷ついて脂質などがたまり、血流が悪くなります。これが動脈硬化です。動脈硬化が進行すると血管壁の弾力も落ち、さらに血圧上昇を招くという悪循環になります。

#### ●動脈硬化の進行は非常に危険

血圧が高いと、主要な臓器に悪影響を及ぼすため注意が必要です。慢性腎不全になると、体の不要な老廃物が排出できなくなり、最終的に透析をしなければならなくなります。

#### ●塩分の取り過ぎに注意

体の中のナトリウムが増えると、その濃度を薄めるために血液量が増えて、多くの血液を全身に巡らせるため血圧を上昇させます。

#### ●アルコールの取り過ぎは禁物

アルコールは、少量であれば血管を拡張して血圧を下げますが、長時間飲み過ぎが続くことで、カリウムやマグネシウムなど血圧を下げる働きのある物質が尿中にたくさん排泄されてしまうため、血圧が高くなるということが分かっています。お酒の飲み過ぎには注意しましょう。

## 自分の健康を見直して医療費を抑えましょう



10月の産業文化祭では、健診相談コーナーを開設

## 史跡「陣ノ内館跡」発掘調査レポート#17



陣ノ内館跡から出土した、中世の「須恵器」

### ■「陣ノ内館跡」で出土した特別な「須恵器」の存在

今月号では、前月号に引き続き、国内産の土器を紹介しします。

右の写真では色は伝わりませんが、この土器は、前回紹介した「かわらけ」のような赤く焼けた素焼きの土器と異なり、灰色がかり硬く焼きしまっています。

これは、「須恵器（すえき）」と呼ばれる土器で、もともとの製作技術は朝鮮半島から伝わり、日本では古墳時代（約1700年前）から作られました。本格的な窯（かま）を用いて1,000度以上の高温で焼き上げるため、硬質で液体を入れるのに適した土器です。当然、一般の人が作るのには難しく、専門的な知識と技術を要します。

「陣ノ内館跡」で出土したこの土器の破片から推測すると、「鉢」の縁の一部で、東播磨（ひがしはりま）で作られた「東播磨（とうはん）系須恵器」と思われます。この当時、「鉢」は、現在のように花木などの栽培に使うものではなく、椀（わん）や皿と一緒に食膳具として使われました。

東播系須恵器とは、中世前期（約800年前）に、兵庫県神出（かんで）窯跡（神戸市）や魚住窯跡（明石市）に代表される窯で作られた須恵器の総称で、関西から、中国・四国、九州地方の中世の遺跡で、「鉢」や「甕（かめ）」の出土がよくみられます。

「館跡」では、「東播系須恵器」はこの1点しか出土していませんが、当時の流通を考えた場合、遠く離れた兵庫から陸路・海路を使いながら運ばれてきたことは、非常に重要です。

中世の須恵器というと、県内でも樺万城（かばばんじょう）窯（荒尾市）や下り山窯（錦町）などで作られていました。現在のような道路交通網が発達していない世の中で、あえて遠方で作られた須恵器が使われていたことは、館の主のこだわりと財力があつたことを示します。

町教育委員会社会教育課 ☎096-234-1111(内線324) ✉klg110@town.kosa.lg.jp

### ■男女平等の制度化を図る国

9月に、三井マリ子さんの「世界一住みやすい国ノルウェーを支える男女平等」という講演がありました。ノルウェーは、国土の5分の1が北極圏にあり、人口は473万人、国連開発計画の人間開発指数で1位、民間国際機関調査の母親が最も住みやすい国で1位です。この国の育児休暇制度の内容を見てみましょう。

母親が妊娠中に、父親は2週間までの休暇を取得できます。出生後職場復帰の権利は、1995年に3年に延長されました。初めの1年間は有給で、両親のどちらかが取得できます。この期間に世界に先立って1993年には、パパ・クォータ制度（パパの強制的休暇）が導入され、当初は4週間、その後改正され6週

## ノルウェーにおける男女共同参画の制度



男性の育児参加が積極的な北北欧国・ノルウェー

間に、2009年には10週間となりました。利用率は1994年は45%、1995年は70%、2008年には90%を超え、男性の育児参加は、この制度を契機として当たり前となったのです。このような「男女共に働き、男女共に家族を守る」の考え方が築かれるまでに、この国の女性たちは男女平等への運動を女性同士が学びあつて広め、連帯し、より良い社会を目指しながら続けてきました。

この歩みを国立女性博物館で見ることができ、1800年代から今日までの女性たちの姿が写真などで展示・解説されています。多忙な暮らしの中の水運び、工場での過酷な低賃金労働、核家族での夫・子どもの世話と家事の毎日、1960年以降の女性解放運動、写真のプラカードには「男女同一賃金の要求」、「1年間の有給休暇を与えよ」などと書かれています。現在、子どもたちはこの博物館を、学習の一環で訪れます。

1988年にクォータ制度を導入したノルウェーでは、公的機関・公的委員会において、男女の比率が最低40%を占めることになりました。経済界でも、公的な場に就つて会社法の中に取締役クォータ制を採用し、会社の最高決定機関の男女平等を図っています。

町住民生活課 ☎096-234-1111(内線102) ✉klg106@town.kosa.lg.jp